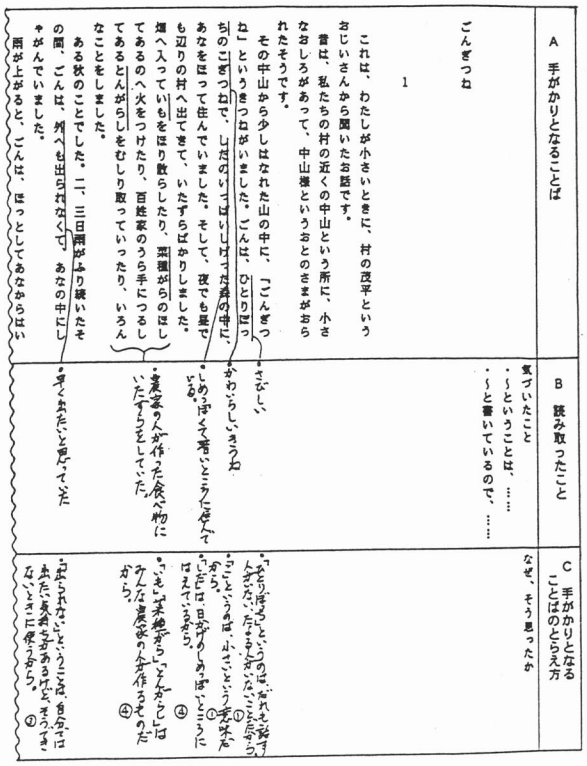
（資料４）



A　手がかりとなることば

ごんぎつね

1

これは、わたしが小さいときに、村の茂平というおじいさんから聞いたお話です。

昔は、私たちの村の近くの中山という所に、小さなお城があって、中山様というおとのさまがおられたそうです。

その中山から少しはなれた山の中に、「ごんぎつね」というきつねがいました。ごんは、ひとりぼっちのこぎつねで、しだのいっぱいしげった森の中に、あなをほって住んでいました。そして、夜でも昼でも辺りの村へ出てきて、いたずらばかりしました。畑へ入っていもをほり散らしたり、栗畑からのぼしてあるのへ火をつけたり、百姓家のうら手につるしてあるとんがらしをむしり取っていったり、いろんなことをしました。

ある秋のことでした。二、三日雨が降り続いたその間、ごんは、外へも出られなくて、あなの中にしゃがんでいました。

雨が上がると、ごんは、ほっとしてあなからはい

B　読み取ったこと

・〜ということは、……

・〜と書いているので、……

・さびしい

・かわいらしいきつね

・しゅんぼうで若いとうたくさんでる。

・農家の人が作った食べ物にいたずらをしていた。

・すくわれたいと思っていた

C　手がかりとなることばのとらえ方

なぜ、そう思ったか

・「ひとりぼっち」というのは、だれも話す人がいない、たった一人だということから。

・「こぎつね」というは、小さいという意味だから。

・「しだは、日かげのしめっぱいところにはえているから。

・「いも」「栗」「とんがらし」はみんな農家の人が作るものだから。

・「すくわれたい」ということは、自分では出られないようなあるけどそうしてくれないときに使うから。

④　自分の知っていること
（見たこと，経験したこと）

⑤　他のことばと比べてわかったこと

なお，これらの観点は読み取りをするときのことばのとらえ方でもある。読み取りをする際にこれらの観点を参考にさせ，いろいろな観点から考えるようにさせる。

2　学習指導案

(1)　単元の目標

○　作品に描かれている物事と人物との関係に気をつけて，人物の考え方や心の動き，人柄を味わいながら，主題を読みとることができる。

○　絵や写真などを見て豊かに想像を広げ，それをもとに時代や登場人物の設定，場面の構成などを考えて物語のあらすじを作ることができる。

○　常体と敬体の違いを理解し，使い分けて文章を書いたり，慣用句への関心を深め，語句の範囲を広げたりすることができる。

(2)　指導計画（総時数　15時間）

次	時	主な学習活動・内容
1	1	○　学習の仕方を知り，練習する。
2	1	○　題名の意味を考え，物語の内容を予想する。 ○　全文を読み通し，感想を述べ合い，初めの感想を書く。 ○　物語の人物や構成を確かめる。 ○　学習の進め方をつかむ。（場面を追いながら読み深めていく。）
3	10	○　学習の仕方にもとづいて，第１場面の文章に書き込みをする。 ○　マサエとおばあちゃんのわらぐつに対する考え方の違いを読みとる。 ○　学習の仕方にもとづいて，第２場面の前段の文章に書き込みをする。 ○　心をこめて，しっかりしっかり編むおみつさんの気持ちを読みとる。 ○　学習の仕方にもとづいて，第２場面の中段の文章に書き込みをする。 ○　初めてわらぐつが売れたときのおみつさんの気持ちを読みとる。 ○　学習の仕方にもとづいて，第２場面の後段の文章に書き込みをする。 ○　大工さんとおみつさんとの心の通い合いを読みとる。（本時） ○　学習の仕方にもとづいて，第３場面の文章に書き込みをする。 ○　あばあちゃんの話を聞いたマサエの変容を読みとる。
4	1	○　主題について話し合い，心の通い合いについて考えをまとめる。 ○　常体と敬体，慣用句について学習する。
5	2	○　物語の構想を立て，物語を書く。 ○　グループや全体で，紹介し合う。

(3)　指導過程

ここでは，検証の中心となる授業の一つである，第３次，第８時の指導過程を，以下にあげる。

〈第３次，第８時〉

○　本時の目標

大工さんとおみつさんの心の通い合いを読みとることができる。